

令和6年度 第3回「特別支援学級運営充実推進委員会」会議録

	<p style="text-align: center;">(1) 令和6年度特別支援学級に関する アンケート（新担任用）の結果報告</p>
委員長	<p>今年度の取組は、私たちがこれまでの3年間行ってきたことがどれだけ現場の専門性を高めたのかを検証すること。また、保護者や児童生徒が特別支援学級の教育をどのように思っているのかについて、特別支援学級に関するアンケートを実施しました。本日は、事務局に結果のまとめや分析をしていただきましたので、委員の皆様には、結果や分析から御意見をいただきたいと思ひます。そして、今日、ご意見を頂いた内容を令和7年4月以降の新担任者研修会で活かしていきたいと思ひますので、それぞれのお立場からご意見を願ひしたいと思ひます。それでは事務局さんから 協議1としまして令和6年度特別支援学級に関するアンケート新担任用の結果報告を願ひします。</p>
委員長	<p>(事務局説明)</p> <p>今、事務局の方から資料に沿ってご説明をいただきました。アンケートでは、「あてはまる」・「少しあてはまる」という肯定的な意見が多くを占めており、かなり専門性が向上されているなどと思ひました。その他お気づきになったところやご質問も含めて、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>水色のグラデーション（あまりあてはまらない・あてはまらない）の回答が多いのは、研修に関することが多いなどと思ひました。自由記述の中に、各地域での研修をふやしてほしいという意見が多かったと思ひます。私自身、3年目以上の研修だったと思ひますが、「特別支援学級の地域別事例検討会」に参加させていただきました。Zoomを活用し、地域の先生方と繋がって、事例を挙げて具体策を話し合いました。もちろん、総合教育センターでいろんな事を学ぶ事も必要ですが、地域の先生方の具体例や指導法をおうかがいする事で学びが深まったり、新たな発見もあつたりするので、そういう研修会が増えたらいいと自分の経験も踏まえて思ひました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。巡回相談員さんも入ってくれる研修ですよ。</p>
濱委員	<p>はい、そうです。</p>
委員長	<p>事例検討において、困った時に関係機関が一緒に入ってくれるからとても良かったですよね。地域でもそういう研修を増やしてほしいという事ですよ。</p>

濱田委員	私が参加したのは3年目以上の研修でしたので、新担任者にもそういう研修があればいいなと思いました。
事務局	新担任者研修会は年間4回の開催であり、学んでいただきたい内容が非常に多く、なかなか地域別の検討会を入れるのが難しいところがあります。現在、担当とも相談しているところですが、来年度には、研修の際、地域で集まって座れるように座席を設定し、情報共有する時間を設ける等して横の繋がりを深めるという工夫は出来るかと思います。
委員長	新担任者は学ぶ事が多すぎて、なかなか具体的な事例まではいかないですね。また、来年度の研修では、地域で情報交換ができるように工夫していただけるという事でよろしく願いいたします。
委員	回答を見ると、ホームページやeラーニング、SNSといったネットワーク環境に自ら情報収集していくところが割と少ないという結果に少し驚きました。今の新しい先生方はこういう事が得意で有効活用されているのではないかという印象をもっていたので意外でした。だからこの辺りをもう少し工夫する余地があると感じました。もう1つは回答率がもう少し高くてもよかったのではないかという印象を持ちました。以上です。
委員長	1点目の自ら情報収集していくところが割と少ないというところについて、どうしてでしょうか。
事務局	新担任者研修の時には、「あどばいすタイム」等の視聴を事前課題として出しておりました。そのときは、みなさん、視聴し、研修をしてきていました。しかし、今回のアンケートの質問の文章を見てみますと、「自主的に」という問いになっています。研修等では、たくさんアクセスをするけれど、自主的にということなかなかできていないと判断し、結果的に低い結果になっているのだと考えられます。
委員	その通りだと思います。1年目だけではなく、すべての教員が特別支援教育推進月間中（8月）にあどばいすタイムやeラーニングを利用して研修をしていると思います。しかし、これ以外で「自主的に」となると、少し難しいと思います。普段の平日だと仕事に追われて出来ていないと判断したところがあると思います。
委員	私は6番7番のところの結果から、先生方がとても頑張っているなと思います。保護者の方の思いを反映しているところや生徒の良いところを保護者と共有して指導に活かしているところ。また、「特別別支援学級は楽しい」のところから「あ

<p>委員長</p>	<p>てはまる」と回答していて、先生方が子供さんを大事にして教育に反映している結果が回答に出ていると感じました。それと20番の生徒さんが利用されている放課後等デイサービスのところは、数値がもっと低いのではないかと思ったのですが、わりと「とてもあてはまる」と「あてはまる」が60%を超えているので先生方同士の連携が広がってきているのではないかと感じました。</p> <p>保護者の方の思いを反映しているとありましたが、先生方の意識が高まってきているのではないかと思います。私も最近、放課後等デイサービスの仕事に携わらせていただいておりますが、1か月ほど前にうちの職員が、ある小学校の先生から「放課後等デイサービスとどのように連携したらいいのですか。本校で研修会をしてくれませんか。」と頼まれたそうです。学校の先生方にとって、放課後等デイサービスは、見えてないところがあり、知っておかないと連携出来ないからと、放課後等デイサービスの職員を呼んで連携の仕方について話し合う機会をもったということがあった訳です。先生方の関係機関との連携意識の高まりを感じます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は特別支援教育研究会会長をしており、徳島県の特別支援教育は一般の教科部会には入っておりません。だから独自の研究大会を持っている組織です。この13番の項目を見ると県内の特別支援教育に関する各種成果発表会に参加したことがあるかというところで、新担任の方の回答が少ないなと思いました。だから、更に広報をしていかないとと思いました。昨年度、徳島県で開催された全国大会や充実した研究大会を行っております。ただ、全ての方に声はかけますが、人数制限があるので、たくさんの先生方に参加していただくことが難しく、今後の課題であると思いました。それと、特別支援学級の新担任というのは若手の先生だけではなく、中堅や再任用の先生といったベテランの新担任という事になってきます。だから、もしかしたらこの「InstagramやICTを活用した情報収集をする」ということが苦手な方が中にはいらっしゃるのではないかと思います。徳島県内の特別支援教育研究会も直接開催を基本にして、情報交換会や成果会もしております。他校の先生と連絡を取り合うという項目についてですが、新担任の方でされている方もいらっしゃると思いますが、現在目の前にいる子供達に何が必要かを考えた時に、関係機関と直接話し合い連携を取る事に重点をおくとすると、時間に限りがあるので優先順位を考えたときに、担任者同士で連絡を取り合うよりも関係機関との連携に時間を割いているのかもしれない。それと徳島県の市町村それぞれに部会があります。それぞれ地域で研究集会や情報交換会を行っている聞いております。先生方のニーズに合った研修や情報交換会をするためにはどうしたらいいのかということについては、研究会としても引き続き研究を進めていきたいと思っております。参考になりました。ありがとうございました。</p>

委員長	<p>新担任者用のアンケートを見ると青色が多いところがあり濃いピンクが少ないところが8番のeラーニングと9番のインスタグラムと13番の実践研修報告会と19番の他校との連絡、そして20番の放課後等デイサービスとの連携や情報交換のところ相対的に低いですね。放課後は仕事が忙しく、積極的に先生方がご自身で判断して情報収集することが少ないようですから、校長先生や特別支援教育コーディネーターさんを通して、新担任の先生方に研修の軽重の付け方を周知していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>分かりました。研修の中で伝えていきたいと思います。</p>
委員	<p>もしかすると新任研修ではこれで良くて、2年目の方には低い数値が残っていると考えてもいいのではないかと思います。13番の項目に関しては、参加したことがあって答えている人もいれば、参加したいと思うで答えている人もいると思うので注意してみる必要があると思います。</p>
委員長	<p>特別支援学級の先生方への研修については、2年目3年目以降のベテランの先生にする研修もありますよね。そういう中で今回の委員会でも2学期の最後頃に新担任者にアンケートを取ってみると、こういうところが十分ではなかったという反省もあったので、研修会等で先生方へお伝えください。</p>
事務局	<p>研修の中でまた伝えさせていただきます。</p>
<h2>(2) 新担任による専門性チェックシートを活用した事前・事後アンケートの結果報告</h2>	
委員長	<p>次の次第に移ります。新担任による専門性チェックシートを用いた事前事後アンケート結果報告をしていただけますか。</p> <p>(事務局説明)</p>
委員長	<p>事務局と委員から、解説を含めてご発表いただきましたが、これについて感想を含めて何かご質問はありませんか。数値が上がった事はすごい事ですよ。</p>
委員	<p>そうですね。120人は多い人数ではありませんが、その中で全部の項目が上がっているというのはいい事だと思います。</p>
委員長	<p>半年の調査で有意差が出るほど向上が見られたということは、研修の効果が十分にあったと考えられます。</p>

委員	<p>事前・事後ともに評価が低かった「指導案の書き方」について考えてみたのですが、指導案を書く事は研究授業をする等の機会があった時くらいだと思います。私も1年目に特別支援学級担任をした時のことを思い起こすと、特別支援学級で研究授業をする機会はありませんでした。校内の研修体制にもよると思いますが、子どものことについて保護者の方と連携したり、日々の準備をしたりして毎日が精一杯だと思います。ただ、指導案の書き方だけに特化するのであれば、ハンドブックを見て参考にする事ができます。しかし、ここで評価が低い理由として、考えられるのは、研究授業の機会が無かったことや書き方は分かるけれど指導内容を指導案に反映させられるか不安であるという観点でお考えになり、低く評価をされたのではないかと思います。この項目については、研究授業をおこなったり、経験を重ねていったりする中で向上していくのではないかなと思います。</p>
委員長	<p>やはり指導案の前に、指導内容や指導方法を充実させていくことがまずは大事ということですね。</p>
委員	<p>進路や就労について情報を集めたり取組を考えたりすることは、教育活動を実践することと分野が違ってきます。先生方には分かりにくいかと思います。特別支援学校であれば、常に就労等を意識しながら、さまざまな活動もしていきますが、特別支援学級であればなかなかその辺りが難しいのではないかなという気がします。</p>
委員	<p>徳島市の特別支援教育部会での取組だけでは、難しいと思います。中学校になってから就労について考えるのではなく、小学校や中学校段階から就労を見据えて、取り組んでいかなければいけないと思います。例えば、農作物を育てる場合には指先の器用さが必要であったり、色々なプログラミングであったりを知らないといけないと思います。そこで、何年か前から夏に研修会をしています。去年はクレエールさんにはかせていただきましたが、どんなところに就職するのかを見据えた研修をおこなっております。そして、研修内容等について報告し、今後も関係を繋いでいけるように働きかけていかなければならないなと思っています。</p>
委員	<p>福祉の立場としては、就労について、いろんなマッチングがある事を当事者と我々が開拓していく必要があるのだろうなと思います。これから労働人口が減っていくので、障がいをもつ方おひとりおひとりがしっかりとした労働者であるという認識のもとに立ち、しっかりとマッチングできる分野で働けるような環境を我々が作っていきなりたいと思います。</p>

委員長	<p>やはり小学校の時から、就労を見据えて教育をしていかないといけないという事ですね。十数年ほど前にキャリア教育という言葉が一世風靡しましたが、他にもいろいろな取組が増えてきたものですから、少し弱くなっているのかもしれませんが、これから就労のために何ををしていかないといけないのかを先生方に考えていただきたいと思います。今、就労についていただいた意見を現場の先生にぜひお返しいただきたいと思います。</p>
委員	<p>親御さんから見る感覚でいうと、支援学級と支援学校とを比べた時、障がいが重度になればなるほど支援学校寄りになるイメージがあります。だから支援学級ではまだ高校受検ができたり、大学に入る事ができたりする感覚で親御さんは支援学級を選んでいきます。しかし、将来のための就労を見据えた教育との部分でいうと、近年では支援学級も支援学校も違いがなくなっているのかなと思いました。支援学校には、就労に関する教材等はたくさんありますが、支援学級には特別な教材はあるのでしょうか。</p>
委員	<p>お話を聞きながら、小学校で何ができるのかを考えてみました。就労にそのまま結びつかないとは思いますが、特別支援学級で1時間以上おこなっている自立活動の中では栽培活動、手先を使う活動や体幹バランスを鍛える運動をしています。将来を見据えて、身につけておきたい力を自立活動の時間で培っていきたいと感じています。</p>
委員	<p>就学システムが変わりましたので、地域の学校には、特別支援学校で学ぶ事が望ましいだろうという判断がでている子供達がたくさんいます。特別支援学校に行く程度ではない子が特別支援学級に在籍し、個々の能力を伸ばすような教育課程で支援・指導するイメージが一般的にはあると思いますが、実際に学校に行ってみると、重度の障がいをもつ子もおります。ですから、その子供の生きにくさや学びにくさについては、将来の就労の事も考えて小学校の時から就労に関わる支援をしていく事が必要だと思います。目の前の子供達の事で精一杯になってしまうと、将来その子がどういうところで働くのか、どのような社会スキルを必要としているのかという展望を持ちながら、教育課程を実践していくという事が大事であると思います。将来のどういうところに結びついていくのかということ、新担任者が最初から意識することが大切なのだと思います。また、アンケートの中に就労に関する項目があることで、就労支援をしないといけないのかと気付く先生もいらっしゃると思います。そういう意味でアンケート自体が理解啓発になると思いますし、視点が与えられ、自ら進んで研修する方も増えるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>以前は、通常学級・特別支援学級・特別支援学校という列がありました。しかし、こういう就労に関する質問が出てくると、学級と学校の違いがなくなり、特別支援学級の教員も専門性も求められる事も多くなり、大変だなと感じます。</p>

委員	<p>だから、この特別支援学級運営充実推進委員会が立ち上がってきたのだと私も思います。しかし、特別支援学校から教材をもらったりやり方を教えていただいたり、また、巡回相談員の方を頼ったり、放課後等デイサービスが福祉と連携して知識や技術を教えていただいたりしながら、専門性の向上に努めてきました。特別支援学級運営というのは、専門性を求められますが、どういう風に専門性を向上させていくのかという課題があると思います。</p>
委員	<p>決して就労がゴールではありません。就労というと経済活動に結びついてしまいますが、子供さんが就労する事が幸せかというところではなく、我々から言えば就労でマッチング出来る方は就労していただき、日中活動の中でおひとりおひとりの特性でその方が打ち込めるものを見つけていけたらいいなと思います。その1つの取組として、現在、創作活動に力を入れております。例えば作品を額縁に入れて購入していただくということも当然やりますが、デザインがトートバッグに反映されて売れるといった流れの取組をすると、今までこの方はこういう事に打ち込めるのかと今まで発見できなかった事が発見できます。したがって、その方が打ち込めるものを保護者の方とともに見つけていく事が大切だと思います。その方の生き方を念頭におき、生きる道を模索していくことを真摯におこなっています。</p> <p style="text-align: center;">(3) 令和6年度特別支援学級に関するアンケート（児童生徒・保護者用）の結果報告</p>
委員長	<p>次に児童生徒とその保護者用アンケート結果についてよろしくお願ひ致します。</p> <p style="text-align: center;">(事務局説明)</p>
委員長	<p>それでは児童生徒とその保護者に対するアンケートについてご感想やご質問等はございませんか。</p>
委員	<p>子供達が毎日楽しく学校に通えている事が大事だと思いますので、その回答を聞く事が出来て大変いいなと思いました。ただ、先生との熱量の違いを感じたり、親としても子供が学校に楽しく通える事は大事ですが、先生に対して楽しく通えることだけではなく、もっと高みを求めていたりするところが課題だと思います。交流学級の先生がどれだけ支援学級の先生と連携を取れているのかわかりませんが、特別支援学級と交流学級の違いが大きいです。保護者は、交流学</p>

	<p>級での様子も聞きたいと思いますので、交流学級の先生と特別支援学級の先生との連携はとても大事だと思います。</p>
委員長	<p>交流学級の先生から交流学級での様子を詳しく聞く機会がありませんね。</p>
委員	<p>親の願いがとてもこのコメントに表れていると思います。学校の先生方に対する思いや我が子にどれだけ手をかけて欲しいか。「先生は、大変良くしてくれている」というコメントと「そうではない」というコメントで二分化していますね。もう1つ気になったのが、保護者用の8番の「学校で身についたことを生活で取り入れている」という設問で29.8%が「とてもあてはまる」になっています。一方、学校は「家庭でできるようになった事等を指導や支援で取り入れている」が40.3%となっています。学校は家庭でしていることを取り入れてくれているのに、家庭は学校でできるようになった事を取り入れていないとあります。これは、もしかすると学校で身についたことを家庭でどう活かせるのか、どのように取り入れたらいいのかということが分からないためなのではないでしょうか。具体的に先生が、「お家でもこのようにやってみてね。」等と示せばいいのかもしれません。</p>
委員長	<p>学校の参観日に保護者がいくと、いろいろ驚くことがありますね。あんまり出来ないと思っていたことが、案外学校ではできていることがあります。これは、学校の集団の力があるからなのかもしれませんね。学校ではできるのに家では甘えてしまえないというように。これは、情動的なものや技術的なものと両面あるとは思いますが。</p>
委員	<p>学校でやっている事とそれを家庭で応用する事は違うではないでしょうか。どのように応用したらいいかが想像つかないことが結構ありますよね。家庭でしている事と学校でしている事の比率が同じくらいになればいいのと思います。</p>
委員長	<p>実際の日々の生活に役立つという観点をもって、教員は1つ1つの活動にねらいをもって指導や支援をしているのですが、それを保護者の方にお伝えする事があまりないことも問題のひとつかもしれませんね。これからは保護者の方に伝えないといけませんね。</p>
委員	<p>具体的に自分がどうやって保護者の方に伝えてきたのかを振り返ると、十分に伝えられていなかったなと思います。自立活動において、集団の中で、他者との関わりについて指導したことがありました。対象の児童の学校や家庭での過ごし方やコミュニケーションにねらいをもって授業をしてきましたが、活用する方法を家庭でのことをイメージして保護者の方にご報告する事がなかなかできていなかったもので、教員が家庭での活かし方を具体的に伝えなくてはいけないと思いました。</p>

委員長	負担にならない程度に宿題等に出すということですね。「学校でこういったことをしています。家でもこういう事ができると思います。」とメッセージに書いてお伝えし、知ってもらおうという事ですね。いいアイデアいただきましたね。
委員	学校で経験した買い物体験や公共バスの利用等学校で経験した事を家庭でも経験させてくださいと家庭に具体的に伝えたこともありました。
委員	3番の「特別支援学級での活動は楽しい」というところと「支援学級での活動は楽しい」というところで、交流学級の方の数値が少し低いことが気になりました。今後、日本がインクルーシブ教育を進めることを踏まえると、交流学級での活動の中で児童・生徒さんが特別支援学級の児童・生徒さんをどう捉えているのかが気になります。インクルーシブ的な価値観で人間関係が築けているのかどうか。これからこの点をどう進めていくかが課題だなと感じます。
委員	保護者用アンケートで「他の保護者からこれだから支援学級はという揶揄がある」という自由記述があり、インクルーシブ教育で自己実現を目指して発信・理啓発をしているけれど実態はこうなっていることにショックを受けました。これからは継続して、啓発が必要だなと感じます。
委員長	難しい問題ですね。通常学級と分けると差別が生まれてしまいます。ですから、特別支援学級の子も私達と一緒にだという意識を育てていかないといけないと感じます。
委員	以前、医療的ケアの必要のある子供さんを支援していた時にそのお母さんが「自分の子供はこの地域で生きていくしかない。そのためには同級生の子供達が大人になった時に街で出会っても声を掛け合う仲になって欲しい。」とおっしゃっておいりました。通常の幼稚園ではハードルが高かったけれど、お母さんがつきっきりで行っていました。その後、小学校の入学式か卒業式だったか忘れましたが同級生と一緒に撮った写真をお母さんが見せてくれました。やはり小さい時からの環境作りが大事だと感じました。
委員	特別支援学級の担任に関しても熱心な方もいればそうではない方もいるというコメント、専門知識が不足しているというコメント等を真摯に受け止めております。それと同時に、通常学級の先生方の理解の推進をしていかなければ、特別支援学級の担任やコーディネーターが一生懸命頑張ってやっても響くところと響かないところが生じてしまいます。難しいです。だから文部科学省が特別支援学級を担任の先生を固定化せず若い先生をどんどん配置し、管理職になる時に特別支援学級の担任をしたり関わったりした先生を認めていまいしょうという風に変わってきていると思います。これからは専門性の向上はもちろんのこと、通常学

級を担任している全ての教員が特別支援教育に関わる視点を持ち、教育に携わっていくことが大切ですね。特別支援学級担任経験者は、通常学級の担任になった時の声のかけ方や配慮の仕方が全然違います。また、交流学級として特別支援学級の子供達を受け持った時に、特別な支援を必要とする子供達を学級の中でどう位置付け、どのように学級運営していくのかが特別支援学級経験者と未経験者では、大きく違います。たくさんの先生方が特別支援学級に携わり、担任も経験し、専門性を高める事をどんどん進めていけばきっと明るい未来があると思います。

委員長

それでは、意見も出尽くしたようです。協議1・協議2・協議3の全てにおいて、何か意見はございませんか。なければ協議4に移ります。

(4) 特別支援学級運営充実推進委員会の 今後の方向性について

委員長

それでは、協議4に移ります。

特別支援学級運営充実推進委員会の今後の方向性についてこれまでの事を振り返ります。3年3ヶ月前の、令和3年12月、特別支援学級担任による体罰が起きました。この時、県教育委員会は「再び、このようなことが起こってはいけない」「徳島県全体の特別支援学級の専門性を向上する必要がある」という強い決意を持っておられることを伺いました。それを実行に移すために、特別支援学級の専門性の向上をどのように進めていくかについて、具体的な方策を議論するため、ちょうど3年前の令和4年2月、「特別支援学級運営充実検討委員会」が設置されました。委員会が始まり、委員の先生方による協議の中で、3つの柱で進めていくことが確認されました。1つ目は特別支援学級に関わる教員の専門性の向上、2つ目は特別支援学級の先生方を一人ぼっちにしない、特別支援学級を学校全体で支えていく校内支援体制の充実、そして、3つ目は学校以外で子どもを支援する関係機関と連携することの3つの柱です。1つ目の特別支援学級の先生の専門性に対しては、担任が決まった時から4月には何をするか、5月には何をするというように、1年間を通して、どのような業務をしたらよいかについて、特別支援学級ハンドブックを改定しました。ハンドブックには、指導事例も多数、掲載しました。総合教育センターは大変な努力をしてくださいました。また、研修が必要な分野については、空き時間等に研修できる「e-ラーニング研修」「SNSによる情報提供」などを充実させました。「特別支援学級コンサルテーション」では、専門家が対象の学校に出向いて、特別支援学級担任に指導助言をしました。それ以外にも保護者や当事者の方のお話を聞く研修会も開催しました。2つ目の校内支援体制に関しては、「ポジティブ行動支援」を徳島県の学校全体に導入し、実践されています。校長や教頭を対象とした研修、特別支援教育コーディネーター

	<p>研修では、校内支援の重要性や実践方法について周知しました。そして3つ目は、関係機関との関係に関しては、委員のみなさんのご意見を受けて、親の会を入れた連携の方法に関するパンフレットを作成して配布しました。このような取組を実践して3年が経過しました。3年間の取組で、「委員の皆様から出た提言はほぼ取り組めた」と思います。</p> <p>このことから、この委員会は、今日で一旦、完結とし、今後、しばらくの間は、これまで実践してきた取組を継続して充実させていく方向性で進んでいただけたらよいのではないのでしょうか。皆さん、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>委員長と一緒に、初年度から参加させていただきました。現場の先生方のお役に立てるように取り組んできましたが、この3年間で、成果としてしっかりと落とし込められたのではないかと思います。今後は、インクルーシブ教育充実に向けて更なる発信ができればいいと思います。</p>
委員	<p>私も異議はありません。先生方の専門性の向上に心から敬意を表したいと思います。この3年間で積み重ねてきたものを徳島県教育委員会と先生方が一緒になり、今後も継続していくことで、より良い学級運営ができるように取り組んでいただけたらありがたいと思います。今回、保護者用アンケートで人員不足というコメントが目につきました。福祉の現場でも人員不足で、良いサービスを提供する専門性の高いエッセンシャルワーカーを確保できないところに行きつきます。専門性を向上させていくこの委員会での意見交換や徳島県教育委員会と先生方の取り組みを我々福祉も参考にさせていただき現場のエッセンシャルワーカーの支援力の向上に役立てていけたらと思います。</p>
委員	<p>私も初期から参加させていただき、要望や意見を発言させていただきました。昔の親と今の親とは違いがあり、考え方も様々で難しいところがあると思います。思い出してみても、特別支援学級の担任の先生に教育も支援もしていただきました。子供達からすると先生という存在は大きいものだと思います。子供達は、何年経っても、案外ちゃんと自分の先生を覚えているものです。子供達にとってこれからも学校生活が実のあるものになって欲しいと思います。</p>
委員	<p>3年間貴重なお時間をありがとうございました。私の娘も小学校と中学校は地元の学校に通っておりました。去年、成人式があったのですが、会場の外に当時仲が良かった友達が待っていて、娘を輪の中の真ん中に入れてくれました。夜の同窓会も徳島市内であったのですが、私は会場の外のロビーで待っておこうと思っていたら男の子が「お母さんの電話番号を覚えておいて。何かあったら僕が電話するから。」と言ってくれました。小学校、中学校と地元で育てきて、交流学級との関係が今も続いております。思い出せば、交流学級の時間、いつも先生が娘を教室の真ん中の席にくださり、そのことが今の生活にも反映されているのだと感じます。特別支援学級にも交流学級にも親として感謝の気持ち</p>

	<p>ちがあります。友達関係を小さい時から築いていく事は生きていく上でとても大事なことだと思います。先生方は大変だと思いますがより良い未来のためにこれからもよろしくお願いします。頑張ってください。</p>
委員	<p>2年間参加させていただきありがとうございました。様々な関係者の方のご意見を聞かせていただき、勉強になりました。私はコーディネーター4年目になります。本校には、特別支援学級と通級指導教室があり、校内支援体制をどうしているかと日々悩んでいる中、この委員会で放課後等デイサービスや保護者の立場からのお話を伺い、参考にさせていただくとともに日々反省もしながら次に活かしていこうという思いで参加させていただいておりました。コーディネーターとして、他の特別支援学級の研修や校内の特別支援教育の研修で伝えていける事は伝えてきたつもりですが、ここで学んだ事を活かして限られた時間の中でできるだけの事を子供達に返していけたらと思っております。</p>
委員	<p>私も2年間参加させていただきました。ありがとうございました。皆さんのお話を聞きながら、自分の振り返りもしていました。この委員会で聞きしたご意見を学校へ持ち帰り、児童生徒の幸せに繋げるために何ができるのかを改めて立ち返り、ここで学んだ事を活かしていこうと思います。</p>
委員	<p>この推進委員会は、保護者の方が臨席してくださったり、福祉の方や大学の先生のご意見をお聞かせいただいたり、現場の声も聞いてくださったりと色々な立場の生の声を集め、それを次の行政政策として実行することができた実のある委員会だったと実感しております。私は、2年間携わらせていただきましたが、この3年間で蓄積したものがこれから継続をしていくのだろうと思います。だからここで一旦おきますが、これからも推進委員会の存在価値が本領を発揮するだろうと楽しみにしております。お世話になりました。ありがとうございました。</p>
委員	<p>3年間関わらせていただき、具体的に実現していただいた取組には、十分成果があったと思います。こういう事が大切であるという理念と具体的な介入はなかなか繋がりにくいことがあります。しかし、実際にこうしてみようと形にして実践いただいたので、今後はこれがサイクルになって定着していく事で、この推進委員会でみなさんと話したことが先生方に伝わり、それが保護者の方々に浸透していく。そして、子供達に還元されるという事が実行されていくであろうと思いつつながらみなさんの話を聞いておりました。それをうちの大学でも意識しながら育てていきたいなと感じました。そして、より多くの方に特別支援学級に触れていただく中でインクルーシブ教育が広がっていくのではないかと思います。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>みなさん、ありがとうございました。みなさんの御意見を聞かせていただきますと、この推進委員会は、ここで一旦終了させていただき、今後はこれを継続して</p>

事務局	<p>実践していくという事でご賛同いただけたらと思います。それでは事務局さん、みなさんに合意していただきましたが、いかがでしょうか。</p> <p>皆様からのお話を伺いながら、長年に渡り、感謝の気持ちがふつふつと湧いてきています。委員長様にはこの委員会の前身となる特別支援学級運営充実検討委員会の立ち上げから関わっていただきました。私も立ち上げの時から関わってきたこともあり、先ほどの委員長様のこれまでの流れのお話を大変感慨深く聞かせていただきました。委員の皆様と共に県が協働するような形で、様々な施策に取り組んで参りました。本日、一定の評価を得られ、嬉しく感じております。県としては、今後もこの施策を継続して実施し、取組が定着するように努力をしていかなければならないと感じております。評価が低かった項目については、委員の皆様からのご意見を踏まえ、新たに改善と工夫をしながら取組を進めていきたいと思っております。</p> <p>委員の皆様、長年ありがとうございました。</p>
委員長	<p>それでは、本日でこの委員会を一旦終了させていただきます。</p> <p>本当に委員の皆様、ありがとうございました。</p>